

令和４年度 第２回学校評議員会議

- 1 日 時 令和５年２月３日（金）１０：４５～１２：３０
- 2 場 所 青森県立弘前中央高等学校 応接室
- 3 参加者
評議員 地域学識者、地域有識者、同窓会役員、後援会監事
学校側 校長、教頭、事務長、教務部主任、生徒指導主事、
進路指導主事、教務部記録
- 4 案 件
(１) 教職員・生徒・保護者アンケート結果に対する説明
(２) 分掌年間評価の説明
(３) 本校スクール・ポリシー作成の進捗状況の説明
(４) 質疑応答・意見交換等
- 5 配付資料
・第２回学校評議員会議資料
・新聞記事＜令和４年８月～令和５年１月＞
・令和４年度 第２回学校評議員会資料（訂正版）

教頭 第二回学校評議委員会を始めたいと思います。

次第 １. 校長挨拶

教頭：校長先生ご挨拶をお願いいたします。

校長： 本日はお忙しい中、またお足元の悪い中お集りいただきありがとうございます。日頃から本校の教育活動に対して、ご支援とご理解を賜っていることに感謝申し上げます。今年度も新型コロナウイルスの影響を強く受けた学校現場ではありました。本校としては、ＩＣＴ機器を活用した授業の推進、コロナ禍での学校行事や部活動の運営、校則の改定の準備、そしてスクールポリシーの作成など多くの事業に取り組みました。本会議では、今年一年の本校の状況を各保護者・生徒・教職員からのアンケート結果をもとに簡単ではありますが振り返った上で、教務部、生徒指導部、進路指導部の各主任から一年間の総括をさせていただきます。その上で、評議員の方々と意見交換をし、来年度の学校運営に生かしていきたいと思います。

次第 ２. 教職員・生徒・保護者アンケート結果

教頭：「令和４年度 弘前中央高等学校自己評価集計結果」、「令和４年度 生徒意識調査結果」、「令和４年度 学校評価アンケート」の３つのアンケート結果については、１月に実施した定例職員会議において職員全体で共有を図りました。また、各職員に対して、各自の分掌業務等に対して、資料を活用して振り返りを行い、改善できるものに関しては、改善を次年度の活動計画に生かすように指示しています。

教頭：まず、教職員を対象とした、「令和４年度 弘前中央高等学校自己評価集計結果」から説明します。資料には昨年度の同項目についての回答／評価に対する増減が昨年比ということで記載してあります。

各質問項目に対して、プラス、マイナスそれぞれ評価がなされていますが、特にマイナスの評価が大きくなった項目については、何とか来年度の計画に活かすこととしています。

特に、（１１）の部活動については、校長から、大会の前を除き、平日１日、土日に１日いずれかを部活を休みにするようにと示した方針を各顧問の先生方が守ってくれているのが良い方向に向かっている要因ではないかと考えています。

教頭：続いて、生徒を対象とした、「令和４年度 生徒意識調査結果」について説明します。

例えば、「４．所属する学年に対して、どのような感想をもっていますか。」という設問に対して、エのやや不満やオのとても不満という評価という評価を付けている生徒が一定数出るのはやむを得ないと考えています。これからも担任と生徒との面談や生徒理解研修などを通してそのようなとらえ方をしている生徒の理解と支援に努めたいと考えています。

教頭：最後に保護者を対象とした、「令和４年度 学校評価アンケート集計結果」について説明します。

記述の意見については、生徒と違い様々な要望があります。学校に対して肯定的な意見はうれしいですが、否定的な意見の方がやはり多くこれがアンケートの現実だと考えています。

様々な学校への意見、要望に対しては、学校内で担当する分掌ごとに、改善案・回答を検討している最中であり、３月には学校のホームページで保護者にお知らせする予定です。

次第 ３．質疑・応答

教頭：これから質疑応答・意見交換の時間に移りたいと思います。

学識者：３学年の生徒から「学校の施設について、冬は大変寒くて困る。」といった不満が挙げられていることに対して、校長が手を打っているとご説明をいただきましたが、どのような手を打っているのでしょうか。

校長：具体的な有効な策を実施できているわけではありません。本校の事務部にお願いして、生徒が冬季間にどのような状況で学校施設を利用しているのかというデータを収集し資料を作成していただいています。それを元に、県の方に何らかの改善策を打っていただけないかということ으로思案しています。来週の月曜日に、県の学校施設課の人に来校してもらうことになっています。まずは、県の担当に状況を理解していただいて、本校の事務長とともにどのような取り組みができるのか試案や県に陳情するための資料作成の準備をしています。

学識者：３学年の生徒は大学受験を控えることとなりますので、放課後に自分の教室で学習したがる生徒も増えていると想像します。昔の生徒は、寒さに震えながら寒い自分の教室で学習に取り組み、私はそのような状況を微笑ましいと感じていましたが、現在はそのようなことを述べている状況にはないと思います。そこで、技能主事等の勤務時間外のこととなることは承知の上で、事務部として何か放課後そのような生徒へ対応しているのかをお伺いしたい。

事務長：学校の暖房は１６時３０分に止まるように、基本的には対応しています。本校の中央棟であれば、１６時３０分に暖房を止めたとしても、１時間程度であれば、余熱等もあり、生徒が寒さを強く感じるということはありません。しかし、進路棟では、暖房を止めるとまず冷たい空気が送風される仕組みになっていまして、その冷たい風についても装置を止めないといつまでも教室内に送られ続けるような仕組みになっています。そのためその冷風を止めるという作業もしなければいけません。現在は３年生の講習の状況に合わせて、講習の終了時間に合わせて暖房が止まるようにタイマーを設定しています。また、暖房が止まった後に冷風が送られるのを本校の代行

員にお願いして、冷風が送られるのを止める操作をしていただいています。現在は、3年生の最後の講習が17時ということですので、その時間まで暖房を使用しています。

同窓会役員：まず、各学校評価について感想を述べます。だいたいの評価について、ほとんどが上がってきているということ自体が素晴らしいことだと思います。例えば0.1程度の増加であったとしても、それは非常に評価すべきことではないかと考えます。まずは、校長のしっかりとした学校経営方針がありその覚悟に対する実践がなされていると感じました。特に担任の先生方18名が一生懸命生徒のために取り組んだということが伝わってきて、とても活力のある学校経営だったのではないかと推測できます。保護者からの評価の中で、教頭が「HPの更新等、保護者への情報提供は、昨年度に比べると今年度はだいぶ頑張ったつもりでしたが、保護者に納得していただけるようにはならなかった」という報告がされましたが、私が推測するには、生徒と保護者の間で親子の会話があり無いのではないかと感じます。親が子どもの生活を理解している、関心を持ってコミュニケーションをとっているのかというところに疑念を抱いています。私自身が本校に在籍した時も同様なアンケートがされていたと思いますが、自分の父母ともに、私が普段何時に寝ているのかということもわからないということでアンケートに回答していたように思います。アンケートの回答をみると、保護者がアンケート項目に対して「わからない」としている割合も大きいように思えますので、一概に学校の取り組みが不十分であることが学校での様子がわからないという原因になっているとは限らないような気がします。どこまで生徒と保護者が向き合っているのかという課題もあるのではないかと感じます。ついそういう問題を家庭外に向けて、学校の取り組みが悪いのではないかという向きもありますが、どこまで保護者と生徒が向き合い、生徒と保護者がそれぞれの想いを伝え合っているのか、その辺りを各家庭でももう少し頑張ってもらえればいいのではとも思います。

保護者アンケートでの意見や要望に対して、学校の各分掌から善後策を回答するということができた。だいぶ前の話になりますが、自分が学校経営をしていた時に、保護者から上げられてきた意見や要望をすべて公開して保護者会を開いたことがありました。そのときは、教頭と教務部と生徒指導部と研修部の参加だったと思いますが、いざ保護者を集めて保護者会を開いてみると、保護者の本心は、学校に対する非難というわけではなく、自ら学校現場に協力できることがあるのではないかという善意が、意見や要望の中には秘められていることが分かりました。文字で受け取る情報については、本意と違う形で記されるものもありますので、もし機会があれば直接保護者からご意見を賜るということもあってよいのかなとも思います。

いじめや体罰に関わることですが、3年生の保護者から、教員の言葉遣いに問題があるのではという指摘がされていました。いじめや体罰について生徒からのアンケートや教員によるアンケートは行われているのでしょうか。また、保護者の認識とずれがあるような気もするのですがその辺りをどう対応しているのでしょうか。

教頭：体罰アンケートは、生徒と保護者を対象に、そしてセクハラについてのアンケートは生徒を対象に行っていますが、問題がある回答はありませんでした。

同窓会役員：教員が自分の発言に対して、生徒がどのような受け止め方をするのかという意識をもう少し持っていただけると良いと思います。教師が文系の生徒を見下すような発言をしたのであれば、言われている生徒を周りで見ていた生徒もいたはずで、アンケートには、教師から言葉による体罰を受けたとまでの認識を生徒は持たなかったようですが、教員として、見下すような発言に対してどう生徒が受け止めるのかという部分に気づけないのであれば怖い点もあると感じまし

た。

同窓会役員：女子の制服のスラックスの導入などはよいことだと思います。学生の中には、L G B Tであることを公表している人もいます。多様化する社会に向けて、様々なことを許容していく事も大事だと感じます。

後援会監事：各アンケートについて8～9割は学校に対して好意的な結果になっていると思います。

様々な意見や要望はあるようですが、全部をそのまま対応するというわけにもいかないでしょうし、少しでも改善できるような点があれば、学校が活かしていただければと思います。私たちからすれば、先生方のご努力には頭が下がる思いもあります。意見は意見としてあるのですが、少しずつ頑張るということで良いのではないのでしょうか。

学校での寒さ対策については、今後少しでも緩和してあげられるように、県の方へ強く働きかけをしていただいて、少しでも生徒の要望に対応していただきたい。冷暖房については、省エネタイプの良い製品も出てきているはずですので、県で対応していただければありがたい。

先生方が生徒へ暴言を言っているのではないかという保護者からの記述があったようですが、ほとんどの先生方は言葉遣いや話し方をきちんと注意されていると思います。ただ、現在の生徒は、先生方などから強く怒られるという経験をしないまま成長してきている面もあるかと思います。自分が高校生の頃は、竹刀や棒を持ち歩いている先生や、生徒に対してチョークを投げつけてくるような教員がいました。また、生徒に足払いをするような教員がいたように思います。当時そのような体験をしましたが、いざ自分が社会に出て働くにあたっては、当時の教員からの指導を受け止めることができるようになっていました。現在は、生徒を誉めなければならないという風潮があるようだが、嫉妬は保護者が行うにしろ、学校生活の中で怒られないで育ったために、社会に出て強い指導を受けるとそのことを受け止めきれずに仕事を辞めてしまうこともあるようで、今の高校生にもそのような部分での耐性をつけてあげることも必要なのではとも思います。どちらかといえば、怒られている生徒がというわけではなく、怒られている生徒を周りで見ていた生徒が親に、その怒っている先生と怒られている生徒のそれまでの経緯を抜きにして捉え、表面上、先生がしていることを保護者に悪く伝えている面もあるのではないかと推測します。

有識者：なぜこんなに3年生から、寒い、寒いと要望が出るのかと考えると、1・2年生が使っている校舎が良いことからくる落差もあるのではないのでしょうか。県内の他の高校の校舎を見てもっと古かったり、寒かったりという高校もあると思うのです。そういう点では、3年生から多くの要望が出てしまうのもやむを得ず、難しいこともあると思います。

学校前の道路が一方通行で、それを知らない保護者で一方通行道路を逆方向に運転する方もいるようですが、学校がそこまで対応しなければならないのかと疑問を感じました。

学校側では、一生懸命な対応がされていて、いい学校だという評判もあるように思いますが、こんなに意見や要望が出てくるのかとも思いました。ただ、先生方にはこれまでの取り組みに自信をもって学校運営を進めていってほしいと感じています。

昔と違い、先生方に対する期待が高くなりすぎていることもあり、特にいい取り組みをしている先生がいて、それ以外の先生に対してなぜ同じようにできないのかという思いを抱くようです。多くの先生方が生徒に対して一所懸命に取り組んでいますので、先生方から生徒に、あなたたちを大事にしているということをもっと伝えていっても良いのではないかと思います。そういう場面が少ないので、生徒からは先生方が優しくないというようにみえてしまうのではないかと思います。もう少し丁寧にそういう部分を伝えてあげてもよいと思います。保護者についても、

おそらく共働きの家庭も多く、先生方と生徒の関係を深く考えず、自分の持っている表面的な情報でアンケートに回答している面もあるように思います。学校の状況を正しく理解できずに、アンケートに回答している部分もあるようで、さきほど教頭が直接電話をかけて誤解を解いたという件も大事な対応なのではないかと思います。そのようなところについては早めに対応することが肝要なのではないでしょうか。先生方は本当に頑張っておられるようなので、それでも意見や要望が多く出てくるという現状はやはり大変なことだと感じています。

次第 4. 分掌年間評価等

教務主任：教務部について説明します。

まず、（１）主体的・対話的で深い学びにつながる授業の推進について述べます。

振替等を利用して授業時数の確保を徹底することができました。時間割について余裕をもって職員及び生徒に提示できました。しかし、同日同クラスで、２回以上同じ教科の授業をするということもあったことから、来年度は配慮するようにしたいと思います。また、１人１台端末を活用して授業改善への取り組みは十分になされています。昨年度と今年度に県の事業に取り組んでいましたが、ＩＣＴを活用して授業に取り組める教員の割合が、昨年度の６７％から今年度は７６％ということで取り組める教員が増加しているという結果になっています。このことについては、来年度も継続して改善を図っていきたいと思います。教務部内の時間割の担当者を探求プロジェクトのメンバーにすることにより、時間割変更に対してスムーズに取り組むことができました。

次に、（２）研修体制の充実について述べます。県の総合学校教育センターにおける研修について、年度当初に案内をしましたが、中堅者研修を除き、研修に参加した先生は１名のみでした。次年度は教科主任に働きかけをして、教科の中から少しでも多くの先生方に研修をしていただきたいと考えています。

続いて、（３）円滑な校務運営について述べます。校内における端末（タブレット）を活用しての学習はすすんできています。生徒の中には、自主的にタブレットの活用に取り組んでいる生徒もいて、音楽の担当者から音楽関係のアプリケーションを導入してほしいという依頼を受け対応したところ、音楽の授業とは関係ない吹奏楽部の生徒が、自分の練習のためにそのアプリケーションを活用しているということがありました。その一方課題として挙げられるのが、家庭学習との連携という部分ではまだ十分に活用しきれていないと考えています。来年度は教科主任と協力して、家庭学習で生徒にタブレットを有効活用させることについて検討しています。

統合型校務支援システムの導入については、校内で対応できることはやりましたが、県からの対応でうまくやれていない面があります。

奨学金については、昨年度より２０人程度希望者が増えました。手続きについては円滑に進めることができました。しかし、保護者からは、生徒自身の判断もあり、教室掲示した奨学金の情報が伝わっていないとの指摘もあり、結果として締め切りギリギリで保護者に情報が伝わり対応しなければならなくなったということもあったことから、来年度はネット上のシステムを活用して奨学金の情報の周知に取り組みたいと思います。

学校ホームページの更新については、昨年度大きく指摘されたところでしたが、スクールサポートスタッフに業務をお願いできたこともあり、今年度はホームページについてはよく更新できたのではないかと思います。

生徒指導主事：生徒指導部について説明します。

まず、（１）基本的生活習慣の確立について述べます。

昨年度の学校評議員会では、遅刻防止と登校指導を全教職員で実施する回数を増やしてはどうかという提案を受けました。新任式、始業式の際に、全員で登校指導を行いました。担任の先生方はC l a s s iによる欠席連絡への対応もしなければならず、朝時間がない中で担任の先生を拘束するのはどうかという問題もあり、また不登校傾向の生徒が増えているという状況もあり、全教職員で登校指導する場面を増やしたいという思いはありますが、様子を見ながらやっていきたいと思います。教室環境については、各学年や環境保健部からの指導もあり、きちんと整備しています。学校行事については、保護者からの要望もあるのは理解しつつも、生徒は様々な制約のもと一生懸命取り組んでくれたと思います。

次に、（２）生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見・早期対応について述べます。

年２回ずつ心理検査アセスと学校生活アンケートの２種類の取り組みを行っています。心理検査アセスでは生徒の心理状態について、学校生活アンケートでは、同級生や家庭環境といった人間関係について調査を行っています。別な会議でも述べましたが、アンケートをとった際の回答により面談が必要だと判断した生徒といざ担任が面談した時、記入ミスだとか思い違いだとかと担任と生徒がやり取りしていることが相当数起こっています。これは、アンケートをとったタイミングと面談をしたタイミングのずれから事後としてそのようなやり取りになった可能性もあり、その生徒に対して注意を払う必要があると考えています。また、年４回このような面談を担当の先生方に行ってもらうことは、これ以外にも面談等を行っていることもあり、担任の先生方には大きな負担をかけてしまっていると思いながらも、研修の材料にもなっていることもあり、心苦しいですが来年度も継続する予定です。なお、３年生については進路指導を優先してもらう観点から３学期の学校生活アンケートは実施していません。

続いて、（３）安全で安心できる学校環境の確立について述べます。

２カ月に１度地区の生徒指導連絡協議会に参加しています。他校と比較すると生徒に対して安心していただける学校であるとは思いますが、他校のように他者の安心を侵害するような生徒が入学しないとも限りませんので、そういう状況への対処も考えておくべきだと思います。新しいこととして、自転車のヘルメット着用義務への対応をどうしていくかということへの準備も進めていく必要があります。今年度は残念ながら校内で盗難が発生しました。今回の件を受けて、更衣室や部室の利用といったことに対する指導が必要だと考えています。SNS関連の事案は起こっていないものの、教員には見えていないところでの動きはあると思いますので、生徒の動きにアンテナを張りつつ起こったことに対処していきたいと考えています。スマートフォンの校内での扱いは、時代の流れということもあり、校則の見直しと合わせて柔軟に対応していきたいと思っています。本校の生徒は場面に応じてスマートフォンを使い分けることもできると考えていますので、先生方の考え方もアップデートしていただきたいと思いますという面もあります。社会の状況に即時対応する形で、コロナウイルス感染症対策についても変更を行いたいと思います。

最後に、（４）「８つの力」の育成を目指した諸活動の充実について述べます。

探求プロジェクトを中心に本校全体で行っている探究活動につきましても、生徒指導部でももっと協力できることがないか検討中です。コロナ対応の状況が治ったら、学校行事を通して生徒が活躍する場面をもっと活かしたいと考えています。校則の変更については、昨年９月末に見直しの取組を行うことを告知しました。生徒会役員がそれ以外の生徒から話を聞いた上で、１０月に生徒会執行部で見直し作業を行いました。１１月の職員会議で、教職員に生徒会執行部からの

意見を共有してもらい、現在校務運営委員会等で教職員の間での意見交換を行っています。現段階としては、遅刻の反省文の廃止をし、遅刻者に対しては家庭の協力のもとに個別の指導を実施したいと思います。スマートフォンの使用についても、反省文及び一時預かりの対応についても廃止とします。女子のスラックスの着用についても、地区の中学校での対応が進んできていることもあり、本校でも同じ方向で準備を進めています。ソックスの色やTシャツの色を学校で指定することについても現在検討中です。また、入学時における地毛の登録のような取り組みも無くします。その他、女子のバッチのピンが刺さるという問題がありますが、メーカーに問い合わせたところどうにもならないという回答でした。他校でも、校則の改定については全学年、全分掌での話し合いが持たれているようですので、本校についても優先して取り組みます。

部活動については、平日1日、土日いずれか1日の活動のない日があるはずですが、週末課題がつらいとこぼす生徒も見受けられます。この辺りは教員の考えとは、平行線となってしまうところもあるのですが、文武両道を本校でどのように取り組ませるのかについては、検討する必要があります。本校は、運動部が15～6団体あり、学芸部も15～6団体あり、愛好会なども含めると部活動の選択肢が豊富な学校であるといえます。しかし、その豊富な部活動の数に顧問の確保が追いついていません。現時点では、学校側が主導して部活動を整理するというシステムになっていないこともあり、その辺りの制度を見直しておく必要があると考えています。

進路指導主事：進路指導部について説明します。

まず、（１）連携した指導体制の確立について述べます。

志望理由や面接や集団討論などの指導については全教員が指導に携わる体制で行っており、情報交換をしっかりと行って実施しています。

次に、キャリア教育の充実について述べます。

キャリア教育を推し進め、生徒が主体的に自身の進路について考えさせる機会を持たせるため、年間のスケジュールに従って各種講演会を実施しました。

続いて、（３）生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択へ向けた助言・指導について述べます。保護者が参加するPTA研修会での講演会の講演内容や進路行事の実施において、各学年とは進路会議を通して密接に情報共有しがら執り行うことができました。

最後に、（４）情報提供について述べます。

学習室の利便性を高めるために、今年度の春に力を入れて環境整備に取り組みました。その結果使用する生徒が目に見えて増加しました。また、「令和4年度 第2回学校評議員会資料」（p34）については、最新の出願者の数を記載した資料に差し替えをお願いします。

教頭：資料23ページから32ページまでは、部活動の記録が載っておりますので、後でご覧おき下さい。

次第5．本校スクール・ポリシー作成の進捗状況について

校長：グラディエーションポリシーの作成については、評議員の方々にも参加いただき感謝しています。それに加えてカリキュラムポリシー、アドミッションポリシー、いわゆる教育課程、求める生徒像の内容を加えて、スクール・ポリシーとして発表することになります。教育課程については大きく変わるものではなく、求める生徒像についてもこれまで通りのものと大きく変わるわけではありません。これらを取りまとめたものを本校のスクール・ポリシーとして青森県の方から

発表していただくことになります。グラディエーションポリシーの作成に関してはお手伝いいただきまして、誠にありがとうございました。

次第 6. 意見交換等

後援会監事：不登校の生徒に対して、どのような対応をしているのでしょうか。それから、弘前中央高校は立地条件も良く、教育内容、部活動いずれの点においても、文武両道に取り組めるということで、人気のある学校です。しかし、少子化にともない閉校や学級減といったことなどが考えられます。10年ほど前の噂の中には、弘前南高校が閉校になるのではないかと、弘前高校が8クラスから6クラスになるなど、様々なことが言われてきました。これからの弘前中央高校においても、立地も良く、弘前高校に次ぐ進学校として努力を重ねている学校であると思います。これ以上学校規模が小さくなるのは残念でなりません。そこで、わかっている範囲で構いませんので、現時点での何か情報をお持ちなのであればお教えいただきたいと思います。

校長：学級減については何も決まっていますが、何とか本校は6クラスを維持できればとは思っています。

生徒指導主事：本校ではスクールカウンセラーとして弘前医療福祉大学の小玉先生にお世話になっています。年度当初に校長から各担任に、生徒本人でも保護者でも、心に強いストレスを抱えているようであればすぐ対処したいのということをお願いしていました。今年度は20件ほど、本校から小玉先生にカウンセリングをお願いすることとなりました。私個人の考えとしては、生活等に対する不安ということもあるのですが、本校の学習活動についていけないということから心身への不調になる生徒も中にはいるのではないかと考えています。市内の医療機関を受診してもらうという方法もあるとは思いますが、積極的にスクールカウンセラーにも対応していただいている状況です。

同窓会役員：先ほど部活動の顧問を持っていただくのが大変だというお話がでていたと思いますが、地域の人材活用とかはやられているのでしょうか。さきほど、教務部主任が、スクールサポートスタッフの力をお借りして業務を行っていると言われていたもので、部活動の方はどんな感じでやられているのでしょうか。

生徒指導主事：現在国の方針としては、部活動を地域でということで義務教育に関しては動いています。高校についても将来的に同じような話になるのではないかと考えています。本校の部活動の状況は、運動部15、学芸部15、愛好会2に対して顧問を配置しなければならず、学芸部は1人の顧問だとしても、運動部には男女がある部活動も多く、教諭、臨時講師、再任用45人の教員では、どうしても足りないという状況です。そのために、部活動の厳選の方針はやむを得ないことだと思います。地域から見ると、弘前中央高校は色々な部活動があって楽しそうだということを学校見学に参加した中学生から聞くこともあります。各部活コーチがいたりもしますが、教員と同じように引率することができるルールになっていないので、これから仕組みが変わってくればと考えています。

同窓会役員：部活動を担当するのは、大変だとは思いますが、何かいい方法があればよいのですが。

校長：現在の生徒会の規約だと、部員がいない部活動であったとしても、部活自体は存続する形になっています。活動する部員がいないのであれば、整理しても良いのではないかと考えていますが、

何年かしている内に、活動したい部員が入ることがあり、とりあえず現時点で所属部員がいない部活動を学校の方で整理できるようにと考えていきたいと思います。

有識者：後援会監事さんの話の中で、不登校の生徒の話題が出てきていました。その中で進路変更を考える生徒も出てくると思いますが、どのように進めているのかお聞かせ下さい。

生徒指導主事：担任と保護者および生徒がそれぞれ話し合いながら進めています。

有識者：とくにやり方が決まっているというわけではないですね。

学識者：図書部のアンケート結果のところで、図書館を施錠なしでフリーにした。その結果使い勝手が良くなり使用率が上がったという記述がありました。先生方が貴重な書籍が置かれている図書館を生徒にフリーに使わせるということは、生徒を信頼していることに他ならず、英断であり、良い取り組みだと思います。部活動において、週末土日のどちらかを必ず休みにするという取り組みも、勝ちたければ休みにしたくないという顧問の思いも出てくると思いますが、学校の置かれている状況の中で考えたとき、生徒のためにも非常にいい取り組みだと思います。生徒が週末課題に追われている状況もあり、教員も教材研究に追われているということもあろうかと思うので、週末のどちらか一日を休みにすることは良いことだと思います。私はわかりませんが、タブレットなどの機器を用いて一方的にならない授業を行っていくのが時勢かと思いますので、ICT活用の取り組みをどんどん進めて欲しいです。校則については、生徒の意見を聞きながら是非全校体制で見直しを進めて欲しいです。スマホの利用についても、各々が歩み寄れる校則を齋藤校長がいるうちに作り上げていただきたい。廃止にしてしまう予定の、遅刻反省文とか、スマホの一時預かりとか、地毛登録とかについては大賛成です。進路指導部については、3年間を見通した進路指導を続けているようですので、今後も継続して今まで通り指導して欲しいと思います。また、推薦や総合型での受験に対する指導はやはり全教職員の体制でお願いしたい。あと、私は違和感を持たないのですが、中央ジャージは今後どうしていく考えでしょうか。

校長：体育科の方でジャージの変更を今現在検討しています。来年度の春からできるのではと思っていましたが、来年度の4月には間に合わないようです。もう現在のようなタイプのジャージは作られておらず、特注という形で対応していただいている状況にあります。あのジャージにするために価格が高くなっているようです。時代に合わせて、体育の授業として適切なジャージに変更したいということで、体育科に検討してもらっています。こちらの件については、体育科に任せようと考えています。

学識者：夏場に着用している、丸首のTシャツはまだそのままの予定なのでしょうか。

校長：体育科を中心にして、体育に適したものにしていっていただければと考えています。

教頭：昨年度の保護者アンケートでは、部活動への不平不満がたくさんありました。今年度は、ほとんどありません。これは部活動で、平日1日、週末1日を休養日に充てるという方針が示され、各顧問が協力した結果が反映されたのだと思います。

次第7. 校長謝辞

校長：本日はどうもありがとうございました。色々なご意見をいただき、また頑張らないとならないと思っています。本日いただいたご意見についても、各分掌でも、学校運営でも対応していきます。今後ともご指導よろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

教頭：以上で学校評議会を終わらせていただきます。お疲れさまでした。